

あすなろの里 地域福祉課長 大坪 暁人 氏の発表でした。あすなろの里ではグループホームが10カ所(定員52名)あり、7割の方が一般就労をされています。生活支援員を基準より多い7人を配置して手厚い支援体制をとっており、特に地域生活を楽しむために余暇支援に重点を置いています。余暇支援の内容は外食・スポーツ大会・ビアガーデン・旅行などです。グループホームの支援者は利用者の生活全てをサポートすることが使命で、利用者の望む人生の実現のために深く関わるのが“やりがい”にも繋がると話されました。最後に課題として“重度高齢化”があり、個々のニーズに応じたグループホームを作り、利用者の選択肢を増やしたいとの考えがあり、その中で高齢対応型の小規模多機能ホームを作る構想があると話されました。

次に徳島県の愛育会地域生活総合支援センター 阿部 愛結美 氏の発表がありました。グループホームが14カ所(78名定員)あり、50名が一般就労の方です。世話人は21名在籍しています。20年以上のベテラン職員も6名おり、利用者と一緒に生活がいきいきと感じているそうです。月に1回世話人が引率して地域の清掃に取り組んでおり、地域の方との交流を通じて、様々な情報や、場合によっては苦情も頂くので地域の声を聞く貴重な場になっているようです。このグループホームの特色として、既婚者4組と同棲1組が暮らしています。同棲は「好きな人ができた」と相談を受ける所から始まり、実際に一緒に暮らすことと、結婚生活への具体的なイメージを持ってもらうとともに結婚生活に必要な支援は何かを探るとのことです。実際、その取り組みで結婚した方がいる一方で、同棲したことで別れた方もいたと話されていました。

最後に愛知県にある、あさみどりの会 わらび共同生活援助事業所 近藤 竜也 氏より発表がありました。県内でグループホーム17カ所(定員28名)を運営し、取り組みとして“支援者養成講座”を実施しています。背景として、職員の高齢化に伴う退職で人材不足があります。これまでの求人では人材が集まらず、要因を探ると待遇面の問題よりもグループホーム自体が知られていませんでした。それを受け、障がいのことや仕事内容を知ってもらうために支援者養成講座を始めました。毎回人数は少ないですが、その分、和やかな雰囲気、職員や利用者が講師となり、事業の内容説明をはじめ、写真を使用してグループホームでの生活の様子を紹介しているそうです。平成26年5月に1回目をスタートし、毎回10名前後で今年度

も5回目を開催する予定されており、講座を通じて2名が宿直スタッフへの採用に繋がり、支援員が講師となることで、支援員自身が自分たちの仕事を見直すきっかけにもなったそうです。人材確保という目的はある程度達成されたので、今後は講座を通じて非常勤職員の研修やホームの余暇面の充実、防災への意識強化などを図っていききたいと話されていました。

メープルにおいても、世話人の人材が募集をしてもなかなか集まりません。勤務条件が厳しい面もありますが、今回の話を聞いて、どのような取り組みができるのかを考えたいと思いました。また、結婚に関する取り組みについての話も印象に残りました。メープルでは具体的な動きはありませんが、想いを口にされる方はおられます。結婚は人生の中でも大きな決断であり、自分自身がそのような支援の経験が無いだけに、その場合はどのように向き合い、どのように伝えていくのか、支援に必要な知識を勉強しておく必要があると認識させられました。発表の中にもありましたが、グループホームでの支援は利用者さんの生活の根本部分を支えることとなります。支援する範囲も広くなる分、利用者さんの人生を様々な角度から、利用者さんと一緒に考えることができるやりがいのある仕事であると再認識させられた研修となりました。

**活動報告(8月16日から9月15日まで)**

活動日	内容
8/19	府立難波支援学校の虐待事件を受けての申入れ(大阪府教育庁)
8/26	大阪市障がい者施策推進協議会 障がい者差別解消支援地域協議部会(大阪市役所)
8/26	神奈川県立津久井やまゆり園での事件を受けての申入れ(大阪市役所)
8/31	大阪ふれあいキャンペーン実行委員会(大阪府庁咲洲庁舎)
9/3-4	全国連合会事業所協議会全国研修大会(岡山市)

**大阪市育成会会員だより**

**《勉強会のお知らせ》**

- ・日 時：10月20日(木) 10:00~12:00
- ・場 所：社会福祉センター 303・304会議室
- ・テーマ：「親なきあとのライフプラン~性について~」
- ・講 師：(社福)大阪府障害者福祉事業団 鹿野 佐代子 氏